

防災・BCPアップデート講座 (8)

緊急時対応計画の検討②



【講師略歴】

BB.univ 学長 WOTA株式会社 防災・BCP担当室長 森 健

- ・1966年東京都出身。開成高校・慶応義塾大学法学部卒業。
- ・静岡県下田市役所、静岡県庁防災局出向(現:危機管理部)を含め、約12年間地方自治体で実務経験を積む。その後企業へ転職。
- ・自動車部品グローバルメーカーである住友電装株式会社においてグローバルなリスク管理体制の再構築を手掛けるなど、複数社で管理職としてリスク管理・危機管理の指揮をとる。
- ・2019年9月よりWOTA株式会社総合企画室長に着任。
- ・2020年9月よりBBuniv学長に就任。
- ・2021年4月よりWOTA株式会社防災・BCP担当室長に就任。

緊急時の対応手順（行動計画）の整理手法

被害シナリオ整理 → 対応戦略整理 → 事前対策整理

	地震発生直後	1時間以内	3時間以内	・・・	4日目以降
● 自然現象	<ul style="list-style-type: none"> ✓地震発生、余震継続 ✓津波、液状化、山崖崩れ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓余震継続 ✓津波襲来継続 	<p>地震発生時にどのような被害が発生するかについて時系列にシナリオ形式で整理する（自然現象、周辺地域の被害、ライフライン状況、自組織の被害）</p>		
● 周辺地域の被害	<ul style="list-style-type: none"> ✓建物倒壊 ✓火災発生・・・ 				
● ライフライン状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓電気、ガス、通信障害 ✓上下水道管破損 				
● 自組織の被害	<ul style="list-style-type: none"> ✓建屋被害 ✓職員等死傷 				
● 対策本部の対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓避難誘導、救出・救護 ✓情報収集・被害掌握 ✓通信手段確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対策本部設置 ✓他拠点・他組織等との連携開始 ✓他組織へ応援要請 			
● 部門別の対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓幹部安否確認（秘書） ✓従業員・職員安否確認（人事） 				

緊急時の対応手順（行動計画）例③

～ある団体の危機管理マニュアル～

危機管理マニュアル類策定のポイント

- I マニュアルに「戦略性」を持たせる
(基本方針と具体的対策を時系列に整理する)
- II マニュアルに「具体性」を持たせる
(行動につながるよう具体的な記述を心がける)
- III 想定すべきリスクは具体的に絞り込んで策定
(結果事象に基づく抽象的なマニュアルは、
浸透も機能もしない)
- IV マニュアルは「指揮官」の目線で策定する。
(危機対応をする指揮官が指示・命令を出し
やすいような内容にする)
- V 常にリーガル・チェックを怠らない。
(危機であってもコンプライアンスに配慮し対応)

危機管理マニュアルの構成例

1. マニュアルの趣旨

2. 危機管理の基本

- (1) 危機管理とは (2) 危機管理における重要視点
(3) トップとスタッフの役割分担 (4) 危機下の組織活動

3. 対策本部・対策本部長の役割

- (1) 対策本部の役割 (2) 対策本部長の役割

4. 段階ごとの基本方針・具体的対策（※地震の場合）

- ・第1段階 災害発生直後の対応と対策本部への参集
- ・第2段階 対策本部機能の確保
- ・第3段階 関係機関の状況把握と情報共有開始
- ・第4段階 被害情報の収集と状況予測
- ・第5段階 災害応急対策の実施
- ・第6段階 受援体制の確立
- ・第7段階 各種対策の安定した継続

5. 平時の備えの重要性

段階ごとの基本方針①

時系列	段階	基本方針
発災直後	【第1段階】 災害発生直後の対応と対策 本部への参集	<ul style="list-style-type: none">● 初期情報の収集● 参集のための準備行動● 対策本部への連絡
	【第2段階】 対策本部機能の確保	<ul style="list-style-type: none">● 庁舎被災状況の把握● 対策本部用スペースの確保● 対策本部開設要件の確認
	【第3段階】 関係機関の状況把握と情報 共有開始	<ul style="list-style-type: none">● 関係機関との通信手段確保● 関係機関の被災状況確認● 関係機関の対策本部開設状況の確認

段階ごとの基本方針②

時系列	段階	基本方針
発災後 2～3時間	【第4段階】 被害情報の収集と 状況予測	<ul style="list-style-type: none">●被害情報の収集・分析●分析結果に基づく 今後の事態予測
	【第5段階】 災害応急対策の実施	<ul style="list-style-type: none">●各種災害応急対策の実施●関係機関に応援要請

段階ごとの基本方針③

時系列	段階	基本方針
発災後 12時間	【第6段階】 受援体制の確立	<ul style="list-style-type: none">● 関係団体からの応援部隊受入れ準備● 応援部隊受入れ開始
発災後 1日～	【第7段階】 各種対策の安定した継続	<ul style="list-style-type: none">● 要員交代計画の立案・運用● 被災者ニーズの変化への対応(変化予測)

緊急時の対応手順（行動計画）

～まとめ～

- 自団体にとって最もオーソドックスな被災シナリオを採用すべき（基本問題だから）。
- 時系列に整理した区部（時間の単位）は、あくまでも目安であって、できる限り早急に対応することが大切。
- 初動対応能力の向上を目指すものであるから、訓練で練度を上げる必要あり。

内容の無断転載を固く禁じます

ご清聴頂きありがとうございました。

アンケートにお答えいただいた方に、本日の資料を配布しております。
今後の情報発信に役立てるためにも、ぜひご協力ください。

